

第3期広島市立大学塾活動報告【10月9日】

国際学部2年

神津 圭佑

市立塾第3期生、4人の活動がスタートした。第1回目のテーマは宇宙飛行士のリーダーシップ。参加者はドキュメント宇宙飛行士選抜試験（光文社新書）を事前に読み、最終候補者10人から一人選び、レポートを書いていた。

ディスカッションは青木先生の進行のもと進んだ。なぜこの人を選んだのか。一人一人自分の言葉で説明した。レポートには表れない思いが言葉に詰まっていた。議論は進み、命を預けるなら誰を選ぶかという問いに対して語り合う。命を預けるなら冷静な分析力を持つ人か人間味のある人か。意見が分かれた。同じ人を見ているのに見る人によって視点が違うのは、その人の人生が違うからだと思う。それはそのあとに話した。人生において今の自分が形作られた時期、経験について話し合った際に感じた。それは最近の出来事であったり、少年期、高校時代、受験期であったり人によって様々であった。今まで生きてきた人生が違えば、考え方が違うのも当然であろう。だからこそ、このように意見をぶつけ合うことが大切だと思う。最後に青木先生がこう述べられた。10人の最終候補者は君たちの年齢の時にどう生きていたのか。そして君たちはどう生きるべきか。この言葉を常に意識して行動したいと強く思う。

こうして始まった第3期市大塾だが、まだ第1回目である。伝えられなかったことや伝わらなかったことはある。けれどもまだまだチャンスある。自分の感じたことを大切にして次のテーマにつなげていきたい。

